

### 3章・1節 三角関数

組	番号	名前

- ① 一般角
- ② 三角関数
- ③ 三角関数の性質

**1** 次の□をうめよ。☑

(1) 弧度法について、次のような関係がある。

$$1 \text{ ラジアン} = \square, \quad 180^\circ = \square \text{ ラジアン}$$

たとえば  $60^\circ = \square$  ラジアン,  $\frac{7}{6}\pi$  ラジアン =  $\square$

(2) 弧度法を用いると、角  $\alpha$  の動径が表す一般角  $\theta$  は

$$\theta = \square \quad (n \text{ は整数})$$

と表される。

(3) 角  $\theta$  がすべての値をとるとき

①  $\sin\theta$  のとり得る値の範囲は  $\square \leq \sin\theta \leq \square$

②  $\cos\theta$  のとり得る値の範囲は  $\square \leq \cos\theta \leq \square$

③  $\tan\theta$  のとり得る値の範囲は  $\square$

(4) 三角関数の性質

$$\textcircled{1} \begin{cases} \sin(-\theta) = \square \\ \cos(-\theta) = \square \\ \tan(-\theta) = \square \end{cases} \quad \textcircled{2} \begin{cases} \sin(\theta + \pi) = \square \\ \cos(\theta + \pi) = \square \\ \tan(\theta + \pi) = \square \end{cases}$$

(5) 半径  $r$ , 中心角  $\theta$  の扇形の弧の長さを  $l$ , 面積を  $S$  とする。

このとき,  $l, S$  を  $r, \theta$  を用いて表すと

$$l = \square, \quad S = \square = \frac{1}{2}lr$$

**2** 次のような扇形の弧の長さ  $l$  と面積  $S$  を求めよ。☑

(1) 半径5, 中心角  $\frac{3}{4}\pi$

(2) 半径3, 中心角  $240^\circ$

**3**  $\theta$  が次の角のとき,  $\sin\theta, \cos\theta, \tan\theta$  の値を求めよ。☑

(1)  $\frac{5}{3}\pi$

(2)  $-\frac{11}{6}\pi$

**4** 次の問に答えよ。☑

(1)  $\tan\theta = \frac{1}{3}$  のとき,  $\sin\theta, \cos\theta$  の値を求めよ。

(2)  $\sin\theta - \cos\theta = \frac{2}{3}$  のとき,  $\sin\theta\cos\theta, \sin^3\theta - \cos^3\theta$  の値を求めよ。

(3)  $\sin(-\theta)\cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) + \cos(\theta + \pi)\sin\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right)$  の値を求めよ。

**5** 次の等式が成り立つことを証明せよ。☑

$$\frac{1}{\tan\theta} + \frac{\sin\theta}{1 + \cos\theta} = \frac{1}{\sin\theta}$$

### 3章・1節 三角関数

#### ④ 三角関数のグラフ

#### ⑤ 三角関数の応用

組	番号	名前

1 次の□をうめよ。[知]

(1) 関数  $y=f(x)$  について、0 でない定数  $p$  があって、等式

$$f(x+p)=f(x)$$

がすべての  $x$  に対して成り立つとき、 $f(x)$  を、 $p$  を周期とする

□という。

(2)  $\sin\theta$ 、 $\cos\theta$  の周期は□、 $\tan\theta$  の周期は□である。

また、 $a$  を正の定数とすると、 $\sin a\theta$ 、 $\cos a\theta$  の周期は□、

$\tan a\theta$  の周期は□となる。

たとえば、 $\cos 3\theta$  の周期は□、 $\tan \frac{\theta}{2}$  の周期は□である。

2 次の関数のグラフをかけ。また、その周期を求めよ。[技]

(1)  $y = -\cos 2\theta$

(2)  $y = 2\sin\left(\theta - \frac{\pi}{3}\right)$

(3)  $y = \tan\left(\frac{\theta}{2} + \frac{\pi}{2}\right)$

3  $0 \leq \theta < 2\pi$  のとき、次の方程式を満たす  $\theta$  の値を求めよ。[技]

(1)  $\sin\left(\theta - \frac{\pi}{3}\right) = -\frac{1}{2}$

(2)  $\tan 2\theta = \frac{1}{\sqrt{3}}$

4  $0 \leq \theta < 2\pi$  のとき、次の不等式を満たす  $\theta$  の値の範囲を求めよ。[技]

(1)  $-\frac{1}{2} < \cos\theta < \frac{\sqrt{3}}{2}$

(2)  $2\sin^2\theta - 1 \leq 0$

(3)  $-1 \leq \tan\theta \leq \sqrt{3}$

### 3章・1節 三角関数

- ① 一般角
- ② 三角関数
- ③ 三角関数の性質

1 次の□をうめよ。☑

(1) 弧度法について、次のような関係がある。

$$1 \text{ ラジアン} = \frac{180^\circ}{\pi}, \quad 180^\circ = \pi \text{ ラジアン}$$

たとえば  $60^\circ = \frac{\pi}{3}$  ラジアン,  $\frac{7}{6}\pi$  ラジアン =  $210^\circ$

(2) 弧度法を用いると、角  $\alpha$  の動径が表す一般角  $\theta$  は

$$\theta = \alpha + 2n\pi \quad (n \text{ は整数})$$

と表される。

(3) 角  $\theta$  がすべての値をとるとき

①  $\sin\theta$  のとり得る値の範囲は  $-1 \leq \sin\theta \leq 1$

②  $\cos\theta$  のとり得る値の範囲は  $-1 \leq \cos\theta \leq 1$

③  $\tan\theta$  のとり得る値の範囲は **すべての実数値**

(4) 三角関数の性質

$$\begin{array}{l} \text{①} \begin{cases} \sin(-\theta) = -\sin\theta \\ \cos(-\theta) = \cos\theta \\ \tan(-\theta) = -\tan\theta \end{cases} \\ \text{②} \begin{cases} \sin(\theta + \pi) = -\sin\theta \\ \cos(\theta + \pi) = -\cos\theta \\ \tan(\theta + \pi) = \tan\theta \end{cases} \end{array}$$

(5) 半径  $r$ , 中心角  $\theta$  の扇形の弧の長さを  $l$ , 面積を  $S$  とする。

このとき、 $l, S$  を  $r, \theta$  を用いて表すと

$$l = r\theta, \quad S = \frac{1}{2}r^2\theta = \frac{1}{2}lr$$

2 次のような扇形の弧の長さ  $l$  と面積  $S$  を求めよ。☑

(1) 半径5, 中心角  $\frac{3}{4}\pi$

[解]  $l = 5 \cdot \frac{3}{4}\pi = \frac{15}{4}\pi$   
 $S = \frac{1}{2} \cdot 5^2 \cdot \frac{3}{4}\pi = \frac{75}{8}\pi$

(2) 半径3, 中心角  $240^\circ$

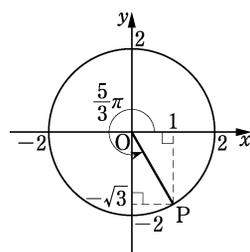
[解]  $240^\circ = \frac{4}{3}\pi$  より  $l = 3 \cdot \frac{4}{3}\pi = 4\pi$   
 $S = \frac{1}{2} \cdot 3^2 \cdot \frac{4}{3}\pi = 6\pi$

3  $\theta$  が次の角のとき、 $\sin\theta, \cos\theta, \tan\theta$  の値を求めよ。☑

(1)  $\frac{5}{3}\pi$

[解] 右の図で、 $\theta = \frac{5}{3}\pi$  のとき、 $OP=2$  とすると、 $P(1, -\sqrt{3})$  であるから

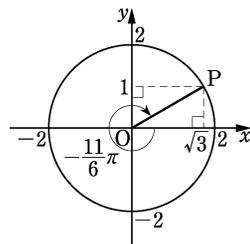
$$\begin{aligned} \sin\frac{5}{3}\pi &= \frac{-\sqrt{3}}{2} = -\frac{\sqrt{3}}{2} \\ \cos\frac{5}{3}\pi &= \frac{1}{2} \\ \tan\frac{5}{3}\pi &= \frac{-\sqrt{3}}{1} = -\sqrt{3} \end{aligned}$$



(2)  $-\frac{11}{6}\pi$

[解] 右の図で、 $\theta = -\frac{11}{6}\pi$  のとき、 $OP=2$  とすると、 $P(\sqrt{3}, 1)$  であるから

$$\begin{aligned} \sin\left(-\frac{11}{6}\pi\right) &= \frac{1}{2} \\ \cos\left(-\frac{11}{6}\pi\right) &= \frac{\sqrt{3}}{2} \\ \tan\left(-\frac{11}{6}\pi\right) &= \frac{1}{\sqrt{3}} \end{aligned}$$



組	番号	名前

4 次の問に答えよ。☑

(1)  $\tan\theta = \frac{1}{3}$  のとき、 $\sin\theta, \cos\theta$  の値を求めよ。

[解]  $1 + \tan^2\theta = \frac{1}{\cos^2\theta}$  であるから  
 $\cos^2\theta = \frac{1}{1 + \tan^2\theta} = \frac{1}{1 + \left(\frac{1}{3}\right)^2} = \frac{9}{10}$

$\tan\theta > 0$  であるから、 $\theta$  は第1象限か第3象限の角である。

(i)  $\theta$  が第1象限の角のとき、 $\cos\theta > 0$  である。

よって  $\cos\theta = \frac{3\sqrt{10}}{10}$

また  $\sin\theta = \cos\theta \tan\theta = \frac{3\sqrt{10}}{10} \cdot \frac{1}{3} = \frac{\sqrt{10}}{10}$

(ii)  $\theta$  が第3象限の角のとき、 $\cos\theta < 0$  である。

よって  $\cos\theta = -\frac{3\sqrt{10}}{10}$

また  $\sin\theta = \cos\theta \tan\theta = -\frac{3\sqrt{10}}{10} \cdot \frac{1}{3} = -\frac{\sqrt{10}}{10}$

(i), (ii)より  $\sin\theta = \frac{\sqrt{10}}{10}, \quad \cos\theta = \frac{3\sqrt{10}}{10}$

または  $\sin\theta = -\frac{\sqrt{10}}{10}, \quad \cos\theta = -\frac{3\sqrt{10}}{10}$

(2)  $\sin\theta - \cos\theta = \frac{2}{3}$  のとき、 $\sin\theta\cos\theta, \sin^3\theta - \cos^3\theta$  の値を求めよ。

[解] 与えられた等式の両辺を2乗すると

$$\sin^2\theta - 2\sin\theta\cos\theta + \cos^2\theta = \frac{4}{9}$$

$\sin^2\theta + \cos^2\theta = 1$  であるから  $1 - 2\sin\theta\cos\theta = \frac{4}{9}$

すなわち  $\sin\theta\cos\theta = \frac{1}{2} \cdot \left(1 - \frac{4}{9}\right) = \frac{5}{18}$

また  $\sin^3\theta - \cos^3\theta = (\sin\theta - \cos\theta)(\sin^2\theta + \sin\theta\cos\theta + \cos^2\theta)$   
 $= \frac{2}{3} \cdot \left(1 + \frac{5}{18}\right) = \frac{23}{27}$

(3)  $\sin(-\theta)\cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) + \cos(\theta + \pi)\sin\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right)$  の値を求めよ。

[解]  $\sin(-\theta)\cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) + \cos(\theta + \pi)\sin\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right) = -\sin\theta\sin\theta + (-\cos\theta)\cos\theta$   
 $= -(\sin^2\theta + \cos^2\theta) = -1$

5 次の等式が成り立つことを証明せよ。☑

$$\frac{1}{\tan\theta} + \frac{\sin\theta}{1 + \cos\theta} = \frac{1}{\sin\theta}$$

[証明]  $\frac{1}{\tan\theta} + \frac{\sin\theta}{1 + \cos\theta} = \frac{\cos\theta}{\sin\theta} + \frac{\sin\theta}{1 + \cos\theta}$   
 $= \frac{\cos\theta(1 + \cos\theta) + \sin^2\theta}{\sin\theta(1 + \cos\theta)}$   
 $= \frac{\sin\theta(1 + \cos\theta)}{\sin\theta(1 + \cos\theta)}$   
 $= \frac{\cos\theta + \cos^2\theta + \sin^2\theta}{\sin\theta(1 + \cos\theta)}$   
 $= \frac{1 + \cos\theta}{\sin\theta(1 + \cos\theta)}$   
 $= \frac{1}{\sin\theta}$

### 3章・1節 三角関数

#### ④ 三角関数のグラフ

#### ⑤ 三角関数の応用

組	番号	名前

1 次の  をうめよ。

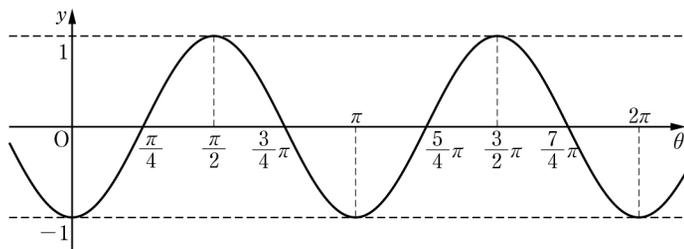
(1) 関数  $y=f(x)$  について、0 でない定数  $p$  があって、等式  $f(x+p)=f(x)$  がすべての  $x$  に対して成り立つとき、 $f(x)$  を、 $p$  を周期とする **周期関数** という。

(2)  $\sin\theta$ 、 $\cos\theta$  の周期は 、 $\tan\theta$  の周期は  である。  
 また、 $a$  を正の定数とすると、 $\sin a\theta$ 、 $\cos a\theta$  の周期は 、 $\tan a\theta$  の周期は  となる。  
 たとえば、 $\cos 3\theta$  の周期は 、 $\tan \frac{\theta}{2}$  の周期は  である。

2 次の関数のグラフをかけ。また、その周期を求めよ。

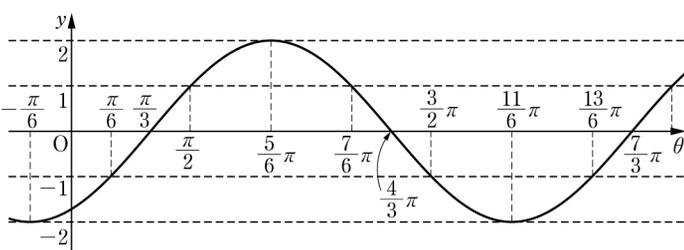
(1)  $y = -\cos 2\theta$

[解] この関数のグラフは、 $y=\cos 2\theta$  のグラフを  $\theta$  軸に関して対称移動して得られる。その周期は  $\pi$  である。



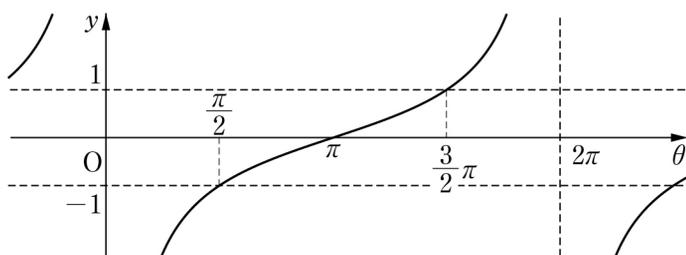
(2)  $y = 2\sin(\theta - \frac{\pi}{3})$

[解] この関数のグラフは、 $y=2\sin\theta$  のグラフを  $\theta$  軸方向に  $\frac{\pi}{3}$  だけ平行移動して得られる。その周期は  $2\pi$  である。



(3)  $y = \tan(\frac{\theta}{2} + \frac{\pi}{2})$

[解]  $y = \tan \frac{1}{2}(\theta + \pi)$  より、この関数のグラフは、 $y = \tan \frac{1}{2}\theta$  のグラフを  $\theta$  軸方向に  $-\pi$  だけ平行移動して得られる。その周期は  $2\pi$  である。



3  $0 \leq \theta < 2\pi$  のとき、次の方程式を満たす  $\theta$  の値を求めよ。

(1)  $\sin(\theta - \frac{\pi}{3}) = -\frac{1}{2}$

[解]  $0 \leq \theta < 2\pi$  のとき

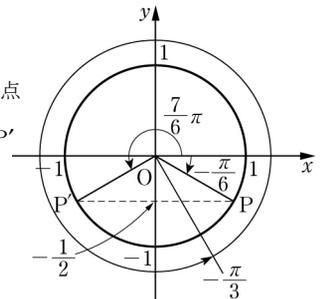
$$-\frac{\pi}{3} \leq \theta - \frac{\pi}{3} < \frac{5}{3}\pi \quad \dots\dots ①$$

単位円の周上で、 $y$  座標が  $-\frac{1}{2}$  となる点

は、右の図の P、P' で、動径 OP、OP' の表す角  $\theta - \frac{\pi}{3}$  は、①の範囲で

$$\theta - \frac{\pi}{3} = -\frac{\pi}{6}, \frac{7}{6}\pi$$

$$\text{ゆえに} \quad \theta = \frac{\pi}{6}, \frac{3}{2}\pi$$



(2)  $\tan 2\theta = \frac{1}{\sqrt{3}}$

[解]  $0 \leq \theta < 2\pi$  のとき

$$0 \leq 2\theta < 4\pi \quad \dots\dots ①$$

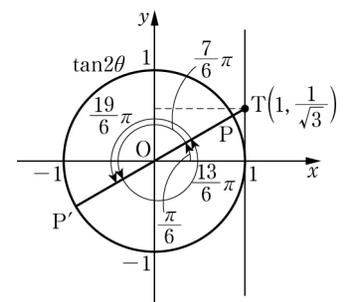
$T(1, \frac{1}{\sqrt{3}})$  をとり、直線 OT と

単位円の交点を右の図のように

P、P' とすると、動径 OP、OP' の表す角  $2\theta$  は、①の範囲で、

$$2\theta = \frac{\pi}{6}, \frac{7}{6}\pi, \frac{13}{6}\pi, \frac{19}{6}\pi$$

$$\text{ゆえに} \quad \theta = \frac{\pi}{12}, \frac{7}{12}\pi, \frac{13}{12}\pi, \frac{19}{12}\pi$$



4  $0 \leq \theta < 2\pi$  のとき、次の不等式を満たす  $\theta$  の値の範囲を求めよ。

(1)  $-\frac{1}{2} < \cos\theta < \frac{\sqrt{3}}{2}$

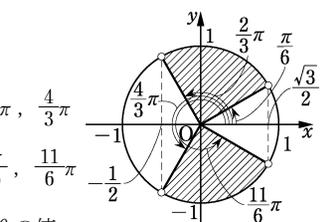
[解]  $0 \leq \theta < 2\pi$  の範囲で

$$\cos\theta = -\frac{1}{2} \text{ となる } \theta \text{ の値は } \theta = \frac{2}{3}\pi, \frac{4}{3}\pi$$

$$\cos\theta = \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ となる } \theta \text{ の値は } \theta = \frac{\pi}{6}, \frac{11}{6}\pi$$

よって、右の図から不等式を満たす  $\theta$  の値

$$\text{の範囲は } \frac{\pi}{6} < \theta < \frac{2}{3}\pi, \frac{4}{3}\pi < \theta < \frac{11}{6}\pi$$



(2)  $2\sin^2\theta - 1 \leq 0$

[解]  $(\sqrt{2}\sin\theta + 1)(\sqrt{2}\sin\theta - 1) \leq 0$  より

$$-\frac{1}{\sqrt{2}} \leq \sin\theta \leq \frac{1}{\sqrt{2}}$$

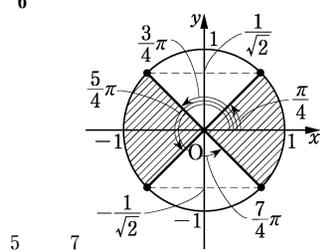
$0 \leq \theta < 2\pi$  の範囲で

$$\sin\theta = -\frac{1}{\sqrt{2}} \text{ となる } \theta \text{ の値は } \theta = \frac{5}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$$

$$\sin\theta = \frac{1}{\sqrt{2}} \text{ となる } \theta \text{ の値は } \theta = \frac{\pi}{4}, \frac{3}{4}\pi$$

よって、右の図から不等式を満たす  $\theta$  の値の範囲は

$$0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}, \frac{3}{4}\pi \leq \theta \leq \frac{5}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi \leq \theta < 2\pi$$



(3)  $-1 \leq \tan\theta \leq \sqrt{3}$

[解]  $0 \leq \theta < 2\pi$  の範囲で

$$\tan\theta = -1 \text{ となる } \theta \text{ の値は } \theta = \frac{3}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$$

$$\tan\theta = \sqrt{3} \text{ となる } \theta \text{ の値は } \theta = \frac{\pi}{3}, \frac{4}{3}\pi$$

よって、右の図から不等式を満たす  $\theta$  の値

$$\text{の範囲は}$$

$$0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{3}, \frac{3}{4}\pi \leq \theta \leq \frac{4}{3}\pi, \frac{7}{4}\pi \leq \theta < 2\pi$$

